



ピースボート災害支援センター(PBV)

2019年度 活動報告

2019.4.1—2020.3.31



VISION

人こそが 人を支援できる ということ

ピースボート災害支援センターは、被災地での災害支援活動や災害に強い社会作りに取り組む非営利団体です。誰しものが、自然災害に遭遇する可能性があります。国や地域を越えて、すべての人々が互いに助け合える社会を創ることが、困難に立ち向かう力になると信じています。

CONTENTS

- 6 国内外の災害支援
災害に見舞われた地域の回復のために、多様な支援者と共に、被災者のニーズに合わせた支援活動を展開しています。
- 12 防災・減災への取り組み
災害に強い社会を創るため、支援人材の育成や防災教育、ネットワークの構築をおこなっています。
- 16 東北への支援
東日本大震災以降、長期にわたり継続的な支援活動を実施。地域課題に取り組むパートナー団体も応援しています。



【課題】

Cause

取り組む課題

市民が助け合わなければ、もはや災害には立向えない。

【使命】

Mission

PBVがすること

想いを“役に立つカタチ”にする。

【理想】

Vision

実現したい社会

すべての人々が互いに助け合える社会を創る。

MISSION

「お互いさま」を共に歩む

いつ、どこで起こるか分からない災害は、時に私たちを被災者にし、時に私たちを支援者にもします。自分を守り、大切な人も守る。そして少し遠くの「あの人」を支えます。私たちは、被災者や被災地域の回復のために、その文化や営みに寄り添い、支援者として自発的に関わる多様な人々の想いを具体的に「役に立つカタチ」にします。



IMPACT

31ヶ国(海外)

54地域(国内)

これまでに支援した延べ被災地数
1995年以降の国際NGOピースボートの災害支援を含む

105,590人

共に活動したボランティアの延べ人数

8,194人

災害ボランティアトレーニング修了者

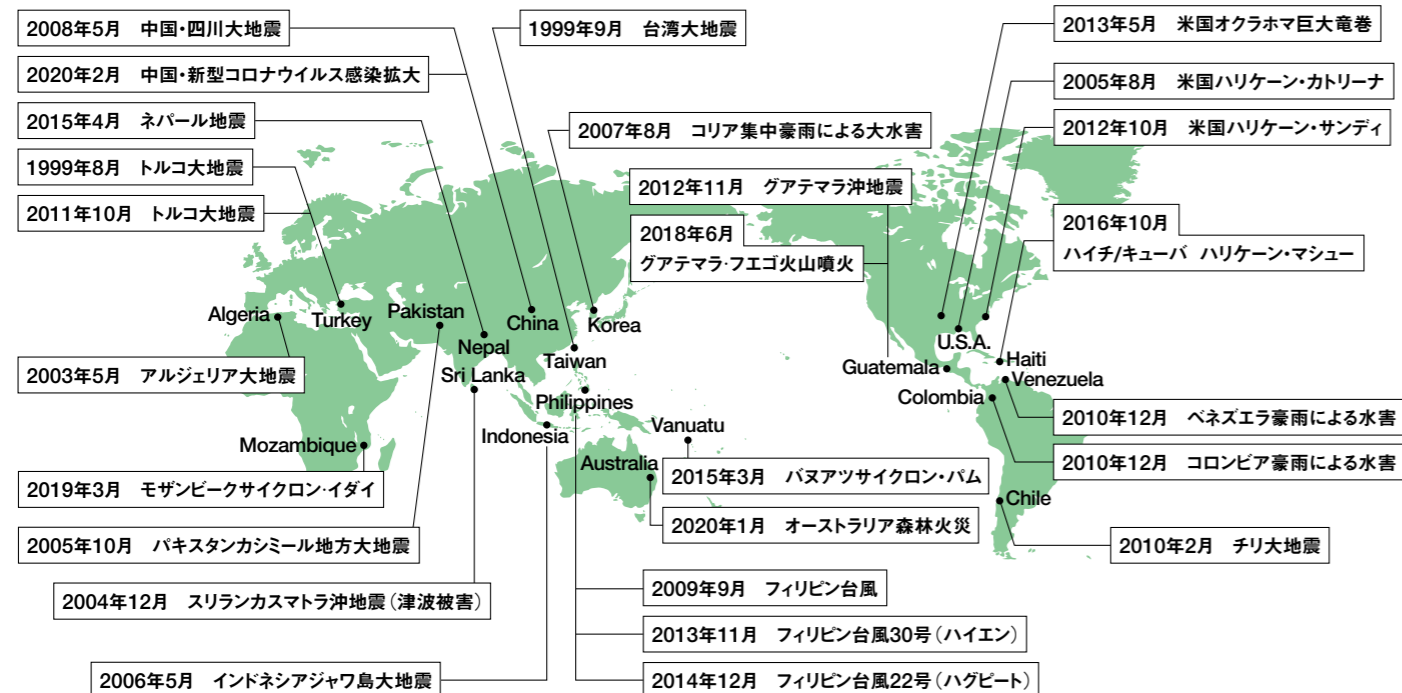
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

国連で採択された2030年までの「持続可能な開発目標(SDGs)」を推進しています。

- 13 気候変動に具体的な対策を
- 11 気候変動に具体的な対策を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 3 すべての人に健康と福祉を

ピースボートの主な災害支援 ※2020年3月現在

海外



ピースボートの主な災害支援 ※2020年3月現在

国内



その地域の人たちには、回復力がある

困難な状況にあったとしても、適切なサポートがあれば、未来に向かう一歩を踏み出せます。
ひとつとして、同じ災害はありません。
そして、ひとつとして同じ支援のカタチもありません。
その時、その場所、その人たちに必要な支援を。

3つのチカラで、被災地を支える

ASSESSMENT

ネットワークを駆使した情報収集と直接現場で被災者ニーズを把握

COORDINATION

課題解決力のある災害ボランティアコーディネート
特徴の異なる多様な組織との協働

SOLUTION

その時、その場、その人に合わせた、多様な支援メニュー



SOLUTION

食事支援(炊き出し)

物資支援

家屋清掃／家屋保全

屋根への防水シート張り

写真洗浄

災害ボランティアセンター
運営サポート

避難所運営サポート

仮設住宅支援

コミュニティ形成サポート

支援団体間調整・
連携サポート

地域産業サポート

ASSESSMENT

災害発生
情報収集

被災地
現地調査

課題把握
支援の決定

COORDINATION

災害ボランティアおよび
専門スタッフの派遣

企業・団体の
強みを活かした協働

支援の基盤を支える
寄付者と後方支援

台風15号・19号(令和元年東日本台風)

2019年9月にかけて、非常に強い勢力を保ったまま台風15号が関東を直撃。多くの地点で観測史上最も強い風を観測し、特に強風によって76,000軒以上の家屋が被害を受けました。また、その1カ月後の10月には、台風19号がまたもや関東、甲信、東北地方を抜け、記録的な大雨となりました。全国で約80,000棟以上の家屋で浸水被害などが発生しました。



福島支援

SOLUTION

[実現したこと]

1 家屋の再建を支える

いわき市社会福祉協議会が運営するいわき市災害ボランティアセンター(災害VC)にて、マッチングや現地調査のサポートを行いました。またボランティアと共に被災家屋の清掃活動を実施し、被災者向けの家屋保全講習会も行いました。延べ190件の家屋の復旧を支えました。

2 避難生活を支える

市内最大の避難所となった内郷コミュニティセンターにて、運営サポートを行いました。避難されている方々がより良い環境で生活を送れるよう段ボールベッドの導入や、炊き出しによる食事支援、イベントの実施などを行いました。

3 コミュニティを支える

地域の方達が集い、コミュニケーションをとれる場として、集会所での物資・食事提供やイベントを実施。集会所が使用できない地域では、仮設の集会所を設置しました。継続的に住民同士が囲んでいける場となるように、備品提供しました。

活動期間

2019年10月13日—継続中

活動場所

福島県いわき市

活動人数

日別延べ活動人数 **2,106**人(185人派遣)

災害前からのご縁を活かした連携



いわき市社会福祉協議会
会長
強口暢子さん

令和元年東日本台風被害が広域にわたるなか、本会職員と被災地支援のご縁もあり、いち早くPBVスタッフが本市の支援に駆けつけてくれました。PBVは、これまでの被災地支援を活かした災害VC運営や避難所支援をはじめ、被災住民向けの床板剥がし講習会やニーズに合った様々な活動を、本会や行政と連携協働を図りながら活動して下さった事に心から感謝申し上げます。いわき市災害VCは開設から閉鎖までに、延べ10,185名のボランティアの協力を得て、953件の支援依頼に対応できました。コロナ禍の影響により制限もありますが、被災者支援のための相談員の配置や「住民支え合い生活支援サービス」を充実させながら支援にあたっています。今後もPBVや多くのボランティアの皆様との御縁を活かしながら市民福祉の向上に努めてまいります。

千葉支援

SOLUTION

[実現したこと]

1 耐久性の高い屋根保全のサポート

台風の強風は、屋根や瓦を吹き飛ばし飛来物となって家々に直撃しました。破損した屋根からは雨が入り込み、生活を難しくしていきます。応急的に設置したブルーシートも、日が経つにつれて劣化していきます。そこで、屋根職人の経験のあるスタッフを中心に、他の支援団体と協力しながらより耐久性のある屋根保全を実施しました。延べ194件の屋根の保全を実施しました。

2 地域を支える連携をサポート

多くの被害が発生した屋根の保全活動は、一般のボランティアには難しい高所作業です。また、その技術を持つ団体も限られています。そのため市区町村を越えて支援団体などが連携し、台風被害の対応と長期的な復旧・復興、地域振興に取り組む「千葉南部災害支援センター」を立ち上げ、PBVもその運営のサポートを実施しました。また、地域の方たちを対象に屋根保全の技術を学べる講習会も実施しました。

活動期間

2019年9月10日—継続中

活動場所

千葉県袖ヶ浦市、鋸南町、館山市、鴨川市、南房総市

活動人数

日別延べ活動人数 **638**人(25人派遣)

屋根にのぼり続けた1年



ピースボート災害支援センター
千葉支援 現地スタッフ
川村勇太さん(館山市在住)

台風15号が南房総を通過した翌朝、庭には雨戸が数枚突き刺さり、隣家の生活用品が散乱していました。隣人たちが互いの家の屋根を指差し、私に「登って直してくれ」と言いますが、当時の私にはなす術がありませんでした。量や家材の搬出などを続けていましたが、屋根の被害は誰も手をつけられず残ったままです。自分たちで何とかしなければと途方に暮れはじめたころ、ピースボートに縁ある友人から元屋根職人のPBVスタッフが千葉に居ることを聞き、藁にもすがる思いで電話しました。それから約一年。PBVスタッフから技術を習得し、連日屋根にのぼり支援活動を続けていますが、それでもニーズがゼロになりません。次の台風シーズンに備え、屋根保全と同時に地域の連携強化を図る毎日です。

九州北部豪雨 佐賀支援

8月下旬、秋雨前線の影響で九州北部地方にて記録的な大雨となりました。佐賀県を中心に土砂災害、河川の氾濫、洪水、浸水などにより6,000棟以上の家屋に被害をもたらしました。



活動期間
2019年8月30日—
2019年10月15日
活動場所
佐賀県大町町、武雄市
活動人数
日別延べ活動人数 **318**人(25人派遣)

避難所の環境改善

特に被害が甚大であった佐賀県大町町では、鉄工所からの工業油の流出被害も発生しました。避難生活が続く中、住民の心身の健康維持のため、食事や生活スペースの環境を改善していきました。また、避難所が支援拠点となるための物資配布の運営サポートを行いました。

家屋再建のサポート

武雄市では、地域の方々の協力のもと民間のボランティアセンターが立ち上がり、PBVもその運営の一部を担いました。全国から集まったボランティアや支援団体とともに、家屋清掃や生活再建の説明会などを実施しました。

西日本豪雨(平成30年7月豪雨) 岡山支援

2018年7月に発生した西日本豪雨の被災地支援を継続してきました。倉敷市災害ボランティアセンターの閉所まで運営をサポートし、ニーズが多様化する中で地域を支える活動を継続しています。



活動期間
2018年7月9日— 継続中
活動場所
岡山県倉敷市(主に真備町)、総社市
活動人数
日別延べ活動人数 **6,409**人(479人派遣)

コミュニティを支える

発災から1年以上が経ち、建設型仮設住宅や借り上げ仮設住宅への転居が進んでいきました。地域の方々が再会し情報交換やコミュニケーションを取れる場づくりを大切にしてきました。仮設団地や地域の集会所や談話室を活用しやすいように備品を提供しました。

共に活動する地域拠点を開設

「災害支援ネットワークおかやま」と共同で、「まび復興ボランティア団体・NPOシェアオフィス(まびシェア)」を5月に開設しました。課題解決のための情報共有の場として活用しています。地域の方々が長期的な復興に取り組むための拠点として使われています。



活動期間
2019年4月11日—
2020年3月31日
活動場所
ソファラ州ベイラ市、ブジ郡
および周辺地域

モザンビーク サイクロン・イダイ

3月中旬、大型サイクロン・イダイがアフリカ南東部に上陸し、モザンビークでは農地の浸水など壊滅的な被害を受け、被災者は170万人以上にのぼりました。

生活再建・生業再開に向けた支援

河川の増水により、主食であり換金作物でもあるトウモロコシの畑の多くが水に浸かり、収穫できなくなったことから、被災地域の多くの住民が食料と現金獲得の手段の両方を失いました。そこで、被害の大きかったブジ郡で食料や種子、農具の配布、また持続可能な農業のためのワークショップを実施しました。

現地パートナー団体「Kulima」

Kulimaはモザンビーク全土で30年以上にわたって地域に根差した、農村開発、社会経済開発のための活動を展開しています。持続可能な農業のためのワークショップや衛生事業など、多岐にわたる活動を実施しています。

相互に尊重し合えた支援活動



Kulima
プログラムマネージャー
Gildo Xavierさん

日本の皆さま、特にパートナーであるPBVの皆さまに敬意を表します。PBVとのパートナーシップを通じて、食料安全保障の分野で、被災者への人道支援の経験を積むことができました。最も弱い立場の人々のために活動したいという私たちの熱意を受け止め、模範となるような礼儀をもって支援を提供してくれました。困難の中にある人々と連帯する組織であることを行動で示し、問題解決に向けてお互いを尊敬し合いながら解決策を見出す柔軟な姿勢をもち、被災者の食料と栄養の安定と回復に寄与してくれました。お互いの異なるスキル・強み・改善点を認識した上で、協力の精神と相互尊重に基づいたアプローチで支援を実現させることができました。

オーストラリア森林火災 —支援が行き届きにくい先住民コミュニティのもとに—

2019年9月頃から2020年3月頃まで続いたオーストラリア南西部の森林火災は、史上最悪の規模となりました。この火災により被害を受けた先住民コミュニティの支援のために、日本国内やピースボート船内で募金を呼びかけました。集まった募金は Australian Communities Foundation を通じて、先住民コミュニティが立ち上げた「Fire Relief Fund for First Nations Communities」の実施する、被災世帯の生活再建や医療機関の支援などに役立てられています。

※各被災地での詳しい活動報告書は、HPからご覧いただけます。



過去の災害に学び、未来をつなぐ

お互いの命や生活を守るため、防災・減災を学ぶ機会を提供します。
 そして、有益な支援活動が実現できるよう
 多様なセクターが連携し協働できるネットワークを構築します。



次への備え

家族と地域を守る

- ・わが家の災害対応ワークショップ
- ・支援を活かす地域力ワークショップ

知見と経験を全国へつなぐ

- ・災害ボランティアセンター運営研修
- ・マッチングシミュレーションゲーム

命、生活、尊厳を守る

- ・避難所の運営研修
- ・避難所運営ゲーム

支援の担い手を育成

- ・災害ボランティアトレーニング (入門・リーダー・スキルアップ)

支援をつなぐネットワーク

- ・全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD) など
- 17のネットワーク組織に参画しています。

日本の経験を世界へ

- ・第3回国連防災世界会議in仙台
- ・防災・減災日本CSOネットワーク (JCC-DRR)
- ・“Making Cities Resilient” 災害に強い都市の構築キャンペーン (国連公式パートナー)

社会貢献をつなぐ備え

- ・社会貢献×防災グッズ Safety bank

プログラム名	受講者数	実施回数	プログラム名	受講者数	実施回数
災害ボランティア入門	472人	22回	災害VC運営研修	1,122人	26回
リーダートレーニング	62人	3回	避難所運営研修	451人	9回
わが家の災害対応ワークショップ	807人	11回	講演・イベント	3,884人	47回
支援を活かす地域力ワークショップ	220人	3回	合計	7,018人	121回

(2019年度)

実践知を活かした研修事業



被災者中心・地元主体・協働 災害VCマッチングシミュレーションゲーム

被災された方々にとって、大きな課題のひとつが自宅の再建です。水害であれば、浸水してしまった家屋を清掃する必要があります。被災者からは家屋の清掃依頼の他にも多様な困りごと(ニーズ)が、災害ボランティアと被災者をつなぐ「災害ボランティアセンター(災害VC)」に寄せられます。災害VCでは、個人のボランティアの他にも、それぞれ専門性を持つ支援団体とも連携していきます。しかし、一般的に災害VCを運営する社会福祉協議会は、地域福祉を専門としているため災害対応に不慣れな場合もあります。PBVでは、これまでにいくつもの被災地で、災害VCの運営支援に携わってきました。その現場での経験や知恵を事前に伝えるために、「災害VCマッチングシミュレーションゲーム」など災害VC運営研修を実施しています。



命・生活・尊厳を守る 避難所の運営研修

災害が発生し、避難を終えたあとのような避難生活が待ち受けているのでしょうか。避難所は、避難者である地域住民が主体となって、行政職員や施設の管理者と協力しながら運営が望まれます。大きな災害となれば、数ヶ月の間、避難生活が続くことになります。しかし、中長期的な避難生活を見据えた取り組みは少ないように思われます。実際の避難所の運営は関係者のほぼ全員が初めての経験です。また、多くの避難所は、そもそも人が生活し暮らすことを前提としない施設もあります。日々変化する状況の中で、安心して健康的な生活を送るためには、避難所の環境をより良くしていく必要があります。避難者の命と生活、尊厳を守るため、中長期での避難所運営を学ぶための研修を実施しています。

※「防災・減災教育プログラム」に関して、詳しくは事務局までお問い合わせください。

支援をつなぐネットワーク作り

東日本大震災の時、数えきれない方達が被災地に災害ボランティアとして駆けつけ、また地域組織やNPO、国際NGOなど多くの支援団体も被災地支援に関わりました。宮城県石巻市では、行政と社会福祉協議会、支援団体との3者連携や支援団体間のネットワーク組織など、画期的なモデルが生まれました。その規模と多様さは目を見張るものがあった一方で、支援の集まりやすい地域とそうでない地域など、支援の「もれ」や「むら」があったとも指摘されています。一つの組織や団体では、災害には立ち向かえない実状も浮彫にしました。それらの反省を受けて、全国の組織をネットワークする全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)が準備会を経て、2016年に設立されました。PBVもJVOADの専門委員会などに参画しています。JVOADでは、平時から支援団体を全国規模でネットワークし、それによって企業や内閣府などとも連携を図れるようになってきました。そして、災害発生時には、各組織が情報を共有し有機的に被災者支援ができるよう、都道府県域や市区町村域の情報共有会議のサポートを実践してきています。現在では、多くの被災地で、行政や社会福祉協議会、支援団体が集う情報共有会議が開催されるようになりました。PBVでは、今後も多様なセクターが連携し協働できる仕組みを積極的に推進していきます。



『被災地につなげる災害ボランティア活動ガイドブック』(全国社会福祉協議会)

全国社会福祉協議会の依頼を受けてPBVスタッフが執筆した『被災地につなげる災害ボランティア活動ガイドブック』が2019年7月に発行されました。災害ボランティア活動に関わる方々を対象に、被災地の支援方法や災害ボランティア活動についてコンパクトにまとめた冊子です。災害ボランティアはもちろん、地元住民、災害ボランティアセンター運営者にとっても、活動の中で、困ったとき、立ち止まったとき、きっと役に立つ情報が詰まっています。



ピースボートクルーズが6年ぶりに石巻寄港



8月21日、ピースボートの客船「オーシャンドリーム号」が、6年ぶりに石巻港に寄港しました。1100名の乗客を乗せた船は、大漁旗によるお出迎えと雄勝町伊達の黒船太鼓の歓迎を受けました。客船誘致に力を入れている石巻市、女川町、東松島市、松島町、大崎市の物産店が立ち並びました。船から降りてきた乗客を、各市町のゆるキャラやシージェッター海斗が出迎えてくれました。

初の船内見学会と特別企画を開催

今回の寄港では、石巻で初めて「オーシャンドリーム号」の船内見学会を行いました。石巻近隣の皆さんが、400名以上乗船してくれました。船内では、2つの特別企画が行われました。東日本大震災後、災害ボランティアをテーマにした舞台『イノマキにいた時間』は、当時の様子を思い起こし、笑いあり涙ありの時間となりました。そして、8月6日と9日にそれぞれ広島、長崎に寄港したこのクルーズでは、平和と音楽の船旅がひとつのテーマでもありました。広島から「明子さんの被爆ピアノ」を乗せ、作曲家吉俣良さんによるミニリサイタルが行われました。



震災や街づくりを学ぶ、寄港地プログラム

石巻に震災遺構として残されることになった旧門脇小学校校舎や旧大川小学校校舎を語り部と共に訪れ、そこで起こった出来事に耳を傾けました。女川町を訪れたツアーでは、町長からユニークな復興街づくりの取り組みを伺い、ほやをさばく体験にもチャレンジしました。クルーズを通じて持続可能な社会を学ぶ「地球大学特別プログラム」では、日本や中国、タイ、台湾から若者グループが石巻市内を探索しました。街づくりに取り組んでいる地元の方や震災後から地域課題を向き合っている団体の方からお話を伺い、熱い意見交換が行われました。



一般社団法人 ほやほや学会

「一般社団法人 ピースボートセンターいしのまき」は2019年10月20日をもって一部事業を終了し、法人名称を「一般社団法人 ほやほや学会」へと変更することとなりました。東日本大震災で、ほや養殖は壊滅的な被害を受けました。その後、生産が開始されていますが、依然として厳しい状況です。三陸の食卓には欠かせないほやの全国的・世界的な認知向上と販路開拓を目指し活動を継続していきます。



SUPPORTERS



特定非営利活動法人
全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)
代表理事
栗田暢之さん

JVOADは、支援者間がバラバラであった東日本大震災の反省から、コーディネーションの必要性を課題認識したことから始まりました。しかし、言うは易し行うは難し。PBVには、2014年頃からの有志が集う協議の場に当初から参画され、生みの苦しみと共に味わってきました。そして、2016年の熊本地震。まだ準備会段階の脆弱なJVOADでしたが、とにかくがむしゃらに連携を呼び掛け、地元「NPOくまもと」との出会いにより、「火の国会議」を生み出すことになりました。ここにも全面的に協力されたばかりでなく、その会議で、行政からの「避難所運営にNPOの力を借りたい!」という声に応え、2ヶ所の避難所等で、PBVの本来活動をいかに発揮されました。その後の相次ぐ災害現場でも、こうした鳥の目のコーディネーションと、虫の目の現場支援の両輪で活躍いただいているのは言うまでもありません。しかし、コロナ禍という新たな難題が立ちはだかっています。どう打開していくか、引き続き一緒に考えていただきたいです。



P&Gジャパン株式会社
広報渉外本部
執行役員
住友聡子さん

P&Gは世界中の人々の日々の暮らしを、パンパースやアリエールといった製品を通じてお手伝いしています。大きな災害が起きた場合、これらの製品がより切実に必要とされることがあります。被害に遭われた方々が早く日常を取り戻せるよう迅速な支援を目指してきました。その一方で、地震や豪雨など、世界有数の災害多発国である日本において、被災地のニーズをいち早く理解し、支援を進める難しさを痛感してきました。PBVとは、西日本豪雨の災害支援から始まり、2019年台風19号被害など、主に製品や物品提供を通じて支援活動をお手伝いさせていただいています。現在、特にコロナ禍における災害支援という厳しい状況で、被災地の支援団体とのネットワークを駆使され、支援を求める方々につなげられた行動力のおかげで弊社も支援活動のお手伝いをすることができました。今まで積み上げてこられたご経験、ネットワーク、被災地に寄り添う姿勢を大切にされた支援をぜひ続けていただきたいと願っております。

ご協力いただいた企業・団体一覧(団体名は略称表記)

ご寄付や物資提供、イベントのご協力など、個人の方からもたくさんのご協力をいただきました。お一人おひとりの皆さまに心より感謝申し上げます。

支援活動へのご協力

アジアパシフィックアライアンス・ジャパン / あらいぐま岡山 / 石巻おっさん倶楽部 / イノマキにいた時間 / エヌシー / エフキンドルズ / 桜花学園高等学校 / 大分県防災活動支援センター / オカムラ / オフィストイ / 風相関東 / 川上産業 / 国立社会福祉協議会 / 倉敷市 / 倉敷市社会福祉協議会 / 倉敷市福祉事業団 / クラダシ / 国際ボランティア学生協会(OB,OG) / 小島の森コルフパーク / コマニー / サービスグラント / 災害エキスパートファーム / 災害NGO結 / 災害被災マッサープロジェクト / 災害対応NPO MFP / 災害ボランティア ぬねねずみ隊 / 災害ボランティア活動支援プロジェクト会議 / 札幌市立宮の丘中学校生徒会 / ジャパン・プラットフォーム / シェアセンター / 市民による海外協力の会 / 浄園寺 / 情報支援レスキュー隊 / 震災がつなぐ全国ネットワーク / 新宿レッドクロス 緊急ナイト / 真如苑 / 信賴資本財団 / ストライブジャパン / 聖ドミニコ学園 / 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク / 全国社会福祉協議会 / 全日本空輸 / 全日本仏教青年会 / ソフトバンク / 武田コンシューマーヘルスケア / たんぽぽハウス / チャイルド・ファンド・ジャパン / チャルカ・ジャパン / 中越防災安全推進機構 / 駐日モンベーク共和国大使館 / 調布市市民活動支援センター / 鶴の恩返し / 哲信会 府中クリニック / 電鉄通商 / 東京海上アシスタンス / 東京海上日動火災保険・東京中央支店有志一同 / 東京都災害ボランティアセンター / 中村工務店 / なごみ パステル / 名取市立みどり台中学校 / なんちゃん子ども食堂 / 西九州大学 / 西原村社会福祉協議会 / 日豪市民芸術交流展in粉河 / 日興アセットマネジメント従業員チャリティプログラム / 日本基督教団代田教会 / 日本財団学生ボランティアセンター / 日本ハビタット協会 / 日本ベンジャミン人間性英才学校4期生 / 廃棄物・3R研究財団 / 俳句結社かつらぎ / バルシステム生活協同組合連合会 / バルステナ子どもセンター / P&Gジャパン / ピースウィンズ・ジャパン / 被災地NGO協働センター / 兵庫県立大学 / フードプロセスフリーダム / 福島民報教育福祉事業団 / ボラ写プロジェクト / ホワイトローズ / 松浦苗圃パッチワーク教室 / 「守ろう!僕らの未来!!」フェス / 三輪学園中学校・高等学校生徒会 / 明光学園高等学校常任委員会 / 白鳥大学ボランティア / メドウサン・デュー・モントド・ジャポン / モリソン・フォスター / 森永乳業 / 屋久島スマイルプロジェクト / リエラ / レスキューストックヤード / ワークショップ支援チーム「つくるプロジェクト」 / ワイズジャーナル / ワイズジャーナル / モルモンヘルピンギング / ADRA Japan / Benevity / BIODANZA JAPAN / Book Cafe & Bar カゼノイチ / gooddo / HuMa 災害人道医療支援会 / JFCネットワーク / K space / LUSH JAPAN / NKB企業 / OKBASE@西九州大学 / OPEN JAPAN / P.R.N.Japan / Pacific and Asian Affairs Council / READYFOR / SOCIAL ACTION COMPANY / Stateless Records / STYZ / TMコミュニケーションサービス / Twitter Japan / VOYAGE MARKETING / WE21ジャパンかえ / WORD COFFEE / Yahoo!Japan / YNF / ZENB JAPAN

活動地域へのご協力

空家・空地活用サポートSAGA(そら・そら) / あそびそだちLabo / 安房文化遺産フォーラム / 安養寺 / 石巻観光協会 / 石巻港大型客船誘致協議会 / 石巻市 / 石巻市教育委員会 / 石巻市社会福祉協議会 / 石巻じれん / 石巻専修大学 / 石巻日日新聞社 / いわきFP・e-らいふ / いわき災害活動勉強会(IDASM) / いわき市 / いわき市社会福祉協議会 / いわき市商工会議所 / いわき市民コミュニティ放送 / いわき放射能市民測定室たちね / エクスプレッション・D.S. / エフエム仙台 / 大町町 / 大町町社会福祉協議会 / 岡田地区社会福祉協議会 / 岡田地区まちづくり推進協議会 / 岡山NPOセンター / 岡山マインド「こころ」 / 女川町 / 女川町観光協会 / おもやいボランティアセンター / 温泉旅館 松島 / かげつ / 金丸家 / 川崎空間研究所 / 川辺地区まちづくり推進協議会 / 木の屋石巻水産 / 銀南復興アクセラレーション / 銀南町 / 銀南町社会福祉協議会 / 銀南ロータリー有志ボランティア / くすりのマルト健康の森平産店 / 九品寺附属平産幼稚園 / 倉敷市 / 倉敷市立岡田小学校 / 倉敷市社会福祉協議会 / 倉敷市真備支えあいセンター / 倉敷市立二万小学校 / グリーンコープ / 呉地区社会福祉協議会 / 呉地区まちづくり推進協議会 / 元気いしのまき / 国連人道問題調整事務所(UN OCHA) / 子育て応援サークルはぐはぐ / コミサビひろしま / 災害救援団体 FAST / 災害支援団Gorilla / 災害支援団体 Revive / 災害支援ネットワークおかもや / 再生建築 北山 / 佐賀県看護協会 / 佐賀県村医保健福祉事務所 / 佐賀県生活協同組合連合会 / 佐賀県社会福祉協議会 / 佐賀県精神保健福祉センター / 佐賀災害支援プラットフォーム / 佐賀市生活自立支援センター / 佐賀女子短期大学 / 佐賀大学教育研究院医学域医学係 / 佐賀未来創造基金 / ザ・ビープル / サンサポートオカヤマ / 3.11みらいサポート / 下平産支援ベース / 常勝院岩城寺 / 白銀大作戦 / 真如苑 佐賀支部 / 三陸河北新報社 / 袖ヶ浦市 / 袖ヶ浦市社会福祉協議会 / 大久商事 / 武雄市社会福祉協議会 / 武雄市高橋地区 / 武雄市 / 館山市社会福祉協議会 / 千葉県社会福祉協議会 / 千葉県南部災害支援センター / 日本YWCAカーロふくしま / 二万地区まちづくり推進協議会 / 服部地区まちづくり推進協議会 / 嘸の会じゅげむ / 浜通り法律事務所 / 浜のふん / ひまわり信用金庫 / フィッシャー・マン・ジャパン / フードバンクさが / 福島県社会福祉協議会 / 福島大学 / 街づくりまなぼう / 真備地域生活支援センター / 真備町写真洗浄@あらいぐま岡山 / まび復興ボランティア団体・NPOシェアオフィス / ママCafeかもみ / 南房総市 / 宮城県教育委員会 / みんぶく / むらつむぎ / 箭田地区まちづくり推進協議会 / ラジオ石巻 / レスキューアシスト / Australia Communities Foundation / Borderless Fire / Fire Relief Fund for First Nations Communities / ISHINOMAKI2.0 / Kulima / Suga Jazz Dance Studio / Teco

メディアでの紹介

【テレビ】NHK「おはよう日本」×2回 / フジテレビ「どくダネ!」 / 日本テレビ「NEWS ZERO」 / TBC東北放送 / KHB日本放送 / 福島中央テレビ / KSB瀬戸内海放送
【新聞】朝日新聞×3回 / 毎日新聞 / 東京新聞 / 石巻日日新聞 / 上毛新聞 / 福井新聞 / 日本海新聞 / 茨城新聞 / 伊勢新聞 / 新聞うずみ火 / 河北新報「石巻かほ」
【雑誌・書籍】「被災地につなげる災害ボランティア活動ガイドブック」(全国社会福祉協議会) / 新報「災害ボランティア入門」(合同出版) / 福祉広報・6月号 / のんびる・7月号 / クリニカルスタディ・9月号 / 「コミュニティ心理学研究」第23巻・第2号
【ラジオ】J-WAVE「HEART TO HEART」 / NHKラジオ「Nらじ」 / MBSラジオ「ニュースラヂオ」
【ネットメディア】J-CASTニュース / 朝日新聞デジタル / HARBOR BUSINESS Online / BIGLOBEニュース / NHK NEWS WEB / NHK 東北 NEWS WEB / 河北新報 ONLINE NEWS×2回

PEACE BOAT GROUP



ピースボート災害支援センター
代表理事
山本 隆

今年は、特に台風やサイクロン被害への支援活動を実施してまいりました。被災地に心を寄せていただき、ご支援、ご協力いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。本年度が終わる頃、新型コロナウイルス感染症が瞬く間に世界中に広がり、私たちの健康や生活が脅かされています。コロナ禍において、被災地への支援活動は厳しい状況になると予想されます。どのような状況にあったとしても、被災された方々にサポートを届けられるよう努めていきます。引き続き、ご支援、ご協力お願い申し上げます。

国際NGO ピースボート

ピースボートは1983年の設立以来、世界各地を巡る「国際交流の船旅」をコーディネートしてきた非営利の国際NGOです。世界中の人々との出会いを通じて、国と国との利害関係を越えた草の根のつながりをつくることを目指して、これまでに100回以上の航海を行ってきました。世界200以上の国と地域を巡り、のべ8万人以上の方々が参加しています。2016年には、国連「持続可能な開発目標(SDGs)」の公式キャンペーン船として認定されました。



WEB <https://peaceboat.org/>

※ピースボートは、国連経済社会理事会との特別協議資格を持つNGOです。

一般社団法人 ピースボート災害支援センター

ピースボート災害支援センター(PBV)は、東日本大震災を受けて2011年4月に設立された一般社団法人です。“国境を越えた災害支援は、地域や世界の平和をつくる”という国際NGOピースボートの想いを継いで、「国内外の災害支援」、「防災・減災の取り組み」、「東北への支援」を中心に活動を行っています。2019年10月1日をもって団体の名称を「一般社団法人 ピースボート災害ボランティアセンター」から「一般社団法人 ピースボート災害支援センター」に変更いたしました。

PBVを紹介する
1分間の動画ができました!



2019年度財務諸表

貸借対照表		正味財産増減計算書	
[資産の部]		経常収益 合計	160,053,037
現金預金	133,792,247	寄付金収入	24,056,098
未収入金	4,048,100	助成金収入	122,152,177
棚卸資産	221,551	自己負担金収入	343,020
前払費用	268,191	サポート会員収入	1,700,280
立替金	175,387	その他収入	11,801,462
仮払金	308,800		
流動資産合計	138,814,276	経常費用 合計	155,927,193
資産合計	139,932,859	事業費計	152,779,798
		管理費計	3,147,395
[負債の部]		当期経常増減額	4,125,844
未払金	10,034,059	法人税	70,000
前受金	42,952,684	正味財産増減額	4,055,844
預り金	196,390		
借受金	73,312	正味財産期首残高	82,550,570
未払法人税等	70,000	正味財産期末残高	86,606,414
流動負債合計	53,326,445		
正味財産合計	86,606,414		

※財務諸表の詳細は、公式HPに公開しています。

加盟団体・ネットワーク

国連防災機関(UNDRR) Making Cities Resilient: My City is Getting Ready / Global Network for Disaster Reduction(GNDR) / ジャパン・プラットフォーム(JPF) / 国際協力NGOセンター(JANIC) / NGO安全管理イニシアティブ(JaNISS) / 支援の質とアカウントリテリ向上ネットワーク(JQAN) / 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD) / 日本NPOセンター(JNPOC) / 東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN) / 国民生活産業・消費者団体連合会(生団連) / 震災がつなぐ全国ネットワーク / 防災・減災日本CSOネットワーク(JCC-DRR) / 民間防災および被災地支援ネットワーク(CVN) / 東京都災害ボランティアセンター アクションプラン推進会議 / 新宿NPOネットワーク協議会 / おおさか災害支援ネットワーク(OSN) / 女性防災ネットワーク東京(GDN-T)

助成元一覧

ジャパン・プラットフォーム(JPF) / 震災がつなぐ全国ネットワーク(震つな) / 真如苑 / 中央共同募金会 / パルシステム生活協同組合連合会 / Yahoo!基金



JOIN US

すべての人々がお互いに助け合える社会へ、皆さまのご支援をお願いします。

ピースボート災害支援センターの活動は、皆さまのご支援で支えられています。

皆さまからお預かりした寄付金・募金は被災者・被災地の支援活動や防災・減災教育活動の活動費として大切に使用させていただきます。

最も寄付を必要としている課題

緊急支援

災害発生時に、いち早く被災者の支援活動を開始するための支援金

現状は災害が発生してから、社会的注目が集まり、寄付行為が行なわれます。事前の備えとして、災害時に活用できる準備金があれば、より円滑に早く、現地調査・支援活動を開始できます。まさに被災者の困りごとに応じて、必要な支援活動を展開するための資金になります。



会員になって応援する


サポート会員

[年会費] [個人] 一口5,000円 [団体] 一口100,000円

※二口以上のご協力も可能です。お支払いは、郵便振替・銀行口座・クレジットカード決済からお選びいただけます。

【会員特典】


- ・ニューズレター「START」と年次報告書をお送りします。
- ・各種講演会・イベントを優先してご案内いたします。
- ・各セミナー、トレーニングが会員価格で受講できます。

詳細はこちらから  <https://pbv.or.jp/support-member>

自由な金額の寄付で応援する

今回のみ寄付

定額・連続ではない、その都度、自由な金額でのご寄付もありがたくお受けしております。お支払いは、郵便振替・銀行口座・クレジットカード決済からお選びいただけます。

詳細はこちらから  <https://pbv.or.jp/donate/donate>


郵便振替 郵便振替口座:00120-9-488841(※下6桁は右ツメ)
口座名:社)ピースボート災害支援センター

ゆうちょ銀行 ゼロイチキューウ店(019店)当座 0488841
社)ピースボート災害支援センター

その他取引先銀行 三菱UFJ銀行、みずほ銀行

ピースボート災害支援センターは、企業のCSR活動を推進する世界的なプラットフォーム「Benevity」に登録されています。Benevityパートナー企業の法人や従業員の皆さまには、同プラットフォームを通じてPBVの活動・運営を支えていただくことが可能です。お勤め先企業の社会貢献活動の一環として、是非お役立てください。



詳細はこちらから  <https://benevity.com/>



2019年度 活動報告

発行：一般社団法人 ビースポーツ災害支援センター

発行日：2020年9月25日

編集：小林深吾、上島安裕、堀場万生

デザイン：森大樹

写真：Ueno Yoshinori, Nakamura Mitsutoshi,
Suzuki Shoich, Yuruki Shiho

この刊行物に関するお問い合わせは下記までお願いします。

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1-2F-A

TEL：03-3363-7967

FAX：03-3362-6073

E-MAIL：kyuen@pbv.or.jp

URL <https://pbv.or.jp/>